

令和3年第17回教育委員会会議（定例会）録

1 日時

令和3年10月25日（月）13時15分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教育長：星子明夫

委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：石橋教育次長、深堀理事

今村総務部長

柴田総務課長、野口課長

赤木教育政策課教育政策係長

4 会議事項

(1) 付議事項

なし

(2) 協議・報告事項

協議・報告ア 令和4年度に向けた市政取組方針について

5 開会

教育長開会を宣告 13時15分

6 付議事項

なし

7 協議・報告事項

▼協議・報告ア 令和4年度に向けた市政取組方針について

今村部長より説明

[質疑等]

(町委員)

○ Well-beingは今回新しく出てきた概念であるか。

(今村部長)

○ そのとおりである。資料に令和4年度に取組みを強化すべき施策として別紙を付けているが、これが令和4年度に特に取組みを強化するよう市長から指示があ

っている分野である。この中の5つある中の最後にWell-beingの向上に資する取組みの推進ということで、市民や企業などへの積極的な情報発信、認知度の向上、あるいは子ども、子育て世代、女性など市民のWell-being向上に資する取組みの推進というものを事業構築の新たな視点として取り入れるよう指示があっている。

(町委員)

- これは幸せという概念になると思うが、一方でI Cやデジタルトランスフォーメーションを活用することは、先ほど説明のあった「ぬくもり」などとは相反するといった意見も出るのではないかと思うが、そのあたりはどうか。

(今村部長)

- デジタルトランスフォーメーションと「ぬくもり」の関係については、市長は以前から、デジタル化によって生み出された人材を人でなければできない仕事に振り分けていこうという再配分の考え方を示している。Well-beingについては、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」という、10年ほど前から掲げている市全体の方向性であるが、その中で、物質的な豊かさであるとか、1番になるであるとか、そういったことをただ目指すのではなく、バランスがとれて、一人一人が幸せを感じられるようなまちをつくるということは、常々市長が掲げている市の運営方針である。それを今回はWell-beingというかたちで、何か物質的に量が増えてみんなが幸せになるということではなく、一人一人がその状況に応じて幸せを感じ取れるような施策をうってほしいということで、新たに指示があったものである。

(町委員)

- 資料7ページに「公共施設等の老朽化による施設の改修・修繕等の経費の増加等」とあるが、教育委員会としては校舎の老朽化などが該当すると思うが、これも来年度の予算編成に当たって意識していかなければならないということか。

(今村部長)

- 全市的には、公共施設等の老朽化に計画的に対応していくよう、数年前から全体の方針として示されていたところであるが、教育委員会として、老朽化する校舎への対応としては、どうするのか十分に決めきれていなかったところである。ただし、待ったなしの状況になっているので、令和4年度については、しっかりと取り組んでいく方向で今後調整していきたいと考えている。

(町委員)

- アセットマネジメントの推進について、これはどちらかというと運用を委託するという意味で使われるが、市の場合のアセットマネジメントの推進というのはどういったことをしようとしているのか。

(今村部長)

- 通常、アセットマネジメントというのは資産管理、資産運用という言葉で表現されるが、福岡市の場合は、公共施設の計画的な維持保全ということで、アセッ

トは基本的に公共建築物、公共資産ということで捉えている。

(徳成委員)

- 資料3ページの重点分野の「(2)次代を担う子ども、グローバル人材の育成」について、2項目が教育委員会に該当するという点で、「さまざまな体験・活動などを通じて、社会性や公共心を持ち」という体験の部分でいうと、例えば、4月にオープン予定のららぽーと、キッザニアなどと学校教育をどう連携させていくのかという試みはあるのか。また、「グローバル人材の育成・定着」ということで、今後、新たな取り組みが行われていくのか、何か見通しがあれば教えていただきたい。

(今村部長)

- 今ご指摘いただいた点について、予算上の取組みがあるかという点については確認できていないが、このページそのものは、令和4年度に向けたものとして書いているが、基本的に、現在の政策推進プラン、福岡市全体の基本計画を推進していく際の実施計画であり、その中に掲げられている文言であって、この基本計画、実施計画に掲げられた考え方をそのまま推進していくようにという内容のページである。私どもの新しい福岡の教育計画というのは、もともと政策推進プランと整合させたかたちで作っているもので、基本的には新しい教育基本計画の推進がこの文言に当たると考えており、来年度特にというものは、先ほど申し上げた5つの項目、脱炭素であるとか、ぬくもりであるとか、Well-beingであるとか、そういったことについては、計画に書いていないことでも積極的にするよとといった通達であると受け止めている。

(町委員)

- デジタルトランスフォーメーションについて、人の部分でみると、教育委員会は今、30人学級を推進していこうというものがあるが、そういった部分はこれに関連してくるのか。

(今村部長)

- デジタルトランスフォーメーションについては、デジタル技術によって住民へのサービス、教育委員会でいえば児童生徒、保護者へのサービスに転換していくということになるので、例えば、タブレット端末を導入したことによって、学校からの連絡をしやすくなったことなどについては、デジタルトランスフォーメーションの一つの分野であると思うが、少人数学級の推進というのは、確かに、デジタル化で浮いた人材をどこかに充てることができるようになるということはあるが、違う文脈で整理しているところである。

(原委員)

- 令和4年の重点強化すべき施策ということで、教育委員会としては、作られた計画に基づいて行っていくことがこれに沿った内容になるという説明であったが、特に計画に載っていないような、今回ここに書いてある項目で、ここには力を入

れる、記載がなかったけれどもこれについては行っていくなど、何か特化した取組みはあるか。

(今村部長)

- 資料最後のページに特に取組みを強化すべきということで、5つの分野を示しているが、例えば、デジタルトランスフォーメーションについては、一人一台端末も導入されたので、それを使った、デジタル化したことによってできることを探っていくということがある。また、Well-beingについては、児童生徒の個々の学びを大事にしていくという観点からすると、Well-beingの個々の幸せ、最適な状況というものを目指していくということで、考えが合うところと思っている。まだ予算編成の途上であるので、これからブラッシュアップしていくことになる。いずれかの時点で委員のみなさまにはご説明することになると思う。

8 閉会

教育長閉会を宣告 13時34分